京都市基本計画策定推進本部第１回本部会議　市長訓示

平成２１年７月１０日（金）

消防庁舎７階作戦室

おはようございます。第１回の京都市基本計画策定推進本部の開催に当たりまして，私の思い，そして皆さんにお願いしたいことを何点かに渡って申し述べたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

いよいよ本日から，市民の皆様と，夢，希望，責任，そして行動を共有し，未来の京都づくりに邁進するための礎となります，新たな基本計画の策定に向け，全庁挙げた本格的な取組を開始します。

今日が，新たな京都の未来のまちづくりのキックオフであります。

私は，基本計画の策定に当たりましても，常々，市政運営の基本としております，市民の皆様とともに汗をかく「共汗」と政策の「融合」が大変重要だと考えております。

これまでに，出来る限り，早い段階から市民の皆様の御意見を頂戴するために，市民１万２千人を対象としたアンケートの実施，職員自らが直接市民の御意見をお伺いする「市民共汗インタビュー」の実施，更には，京都ならではの京都市未来まちづくり１００人委員会の開催，熱心な議論をしていただいております。また，おむすびミーティング，ハートミーティングなど様々な機会を通して，現地現場の市民の声を直接お伺いしてきました。職員とのコミュニケーションも図ってきました。また，他都市にない先進的な取組として，基本計画の在り方を根本的なところから探究し，同時に，融合的な視点で京都の未来像や重点戦略の案を検討していただくために，様々な分野の新進気鋭の若手学者による「未来の京都創造研究会」を設置し，公募による若手職員とともに，精力的に調査研究をしていただいております。今月中には最終報告を頂戴することになっておりますが，非常にユニークな，研究者と若手職員が市民とともに知恵を絞ってきた報告を頂戴致します。

今年度は，更に未来の京都の主人公であります小中学生の夢や若者の提案の募集を行っており，既に，若者提案，マニフェストについては現時点で５００件を超える応募が寄せられております。非常に心強く思っております。

今後は，こうした取組の成果をベースにしまして，本年９月を目途に学識者や市民代表等で構成する基本計画審議会を立ち上げ，基本計画を知恵と汗で練り上げていきます。同時に，京都市独自の斬新な取組として，概ね３５歳以下の若者たちで構成す

る「未来の担い手・若者会議　Ｕ（アンダー）３５」を設置し，若者ならではの大胆でしなやかな発想による審議会への提案や，計画策定の協力を得て参りたい，このように考えております。

また，前回，京都市が政令指定都市で初めて策定致しました各区の独自の基本計画についても，次期基本計画と同時に新たな計画を策定致します。各区におきまして，既に，地元とのワークショップによる円卓会議の実施など，区長を先頭に，第一線の区役所の職員が情熱を傾けて，区民の皆様と未来の区づくりに熱い議論を行っていただいております。非常に地域に根差した取組ができている，市民の方からもそのような評価をいただいております。

区役所が変われば京都市役所全体が変わり，京都のまちが変わります。私はそう確信しております。区基本計画づくりについても，市全体の基本計画と十分連携しながら，引き続き，区民の皆様との「共汗」と政策の「融合」を基本に，区民と区役所が現地現場でモティベーションを大いに高め合える取組を推進していただきたい。また，区役所から本庁へ大いに刺激を与えていただき，政策が融合していただけるように，このようなことを期待しております。よろしくお願いします。

さて，京都市基本計画は１０年後の京都を「どのようなまちにするのか」，「市民の幸せをどのようにして実現していくのか」，その道筋を示すものであります。

ますます激動化する現代社会にあって，１０年後の未来図を的確に描き出すことは極めて困難とも言えます。現に，この僅か１年足らずの間にも，アメリカの金融危機に端を発した世界的な不況や，新型インフルエンザの世界的な猛威など，本市においても即座に，そして即効性のある対応が迫られている，想定外の大きな変化や課題が出現しております。その時その時の的確な対応も求められております。

しかし，同時に，極めて不透明感の強い混迷の時代であるからこそ，未来の京都の在るべき姿，京都の選択を大局的にかつ的確にわかりやすく示し，市民と行政がしっかりと共有することが大変重要であると考えております。

本年５月に，未来の京都創造研究会から「中間報告」として，新たな基本計画は，行政計画の域を越えて，市民，企業など多様な参画主体と行政が役割分担と協働によってまちづくりを進める指針となる「共汗型計画」，共に汗をかく計画，「共汗型計

画」として策定するべきとの提案を頂戴しました。私もまったく同感であります。

過去と相手は変えられないが，自分と未来は変えられる，また，未来は予想するものではなく，共に私たちが創っていくものであります。

本市は厳しい財政状況であります，また少子高齢化や人口減少など大変な課題を抱えております。しかし，ピンチをチャンスにし，市民の皆様が，「なるほど，その未来に是非向かって行きたい，行こう」と共感していただき，ともに立ち上がっていただく，行動していただけるような基本計画を作っていきたい。そこで，策定に当たっては，特に次の三点に留意して，徹底した議論をお願いしたいと思います。

まず第１点ですが，「徹底した市民参加と徹底した職員参加」であります。

未来の京都のまちづくりの主役はあくまで市民であります。京都は，町衆の自治の伝統が脈々と息づくと同時に市民の１割が大学生であります。また，若いエネルギーが満ちております。私は，生産のエネルギー，若者のエネルギーを日々，実感しております。

京都が持つ歴史的な蓄積と現代の英知を総結集し，融合するため，市民と膝を突き合わせて議論を行い，市民にも真剣になって京都の未来を考えていただき，時には市民同士の議論が大いに巻き起こるくらいに熱い議論が行われる努力と工夫を，市役所で，区役所でお願いしたいと思っております。同時に，本日を契機に，１万６千人全職員が主体的に基本計画づくりに参画し，自分自身の所管だけでなく，自分の与えられた職務としての分担だけでなく，職場の垣根を越えた京都市全体の視点による，徹底した議論を繰り広げていただきたいと思います。

不要不急の業務は徹底的に効率化する一方で，未来につながる議論は時を惜しまず，口角泡を飛ばしながら情熱をぶつけ合って欲しい，そのように思います。

２点目は，「徹底した未来志向」であります。

悲観からは何も生まれません。現代の困難の中にチャンスを見出し，明るい未来への希望を語り合って欲しい。是非ともお願いしたい。また，１０年間というスパンは人にとってはある程度長く感じられる，このように思います。しかし，都市にとっては短いものであります。施策・事業には比較的短期間で効果が得られるものもありま

すけども，地球温暖化対策や景観，歩くまち京都などの交通政策，更には将来を担う人づくりなど，直ぐには効果が現れにくいけども，着実な取組が京都の未来を大きく左右するものであります。基本計画づくりにおいては，夢と希望を大切にしながら，１０年先だけでなく，５０年先，１００年後の未来も視野に入れた大きな視点から既存の枠を超えた徹底した未来志向で議論をお願いしたい，そのように思います。

３つ目は，「徹底した戦略性の追求」であります。

当然のことではありますが，計画は手段であります。実現しなければ意味がありません。

熱いハートで明るい未来を描くと同時に，クールな視点で徹底した実現可能性，実現の道筋の追求についても議論していただきたい。その際には，決して縮み指向に陥ることなく，政策の大胆な融合など，誰もが納得のいく，そして，なるほどと感嘆されるような知恵の発露を期待致します。

いよいよ，本日から本格的な議論を開始します，この基本計画の策定は，地域主権時代をリードする京都市の新たなチャレンジであります。そして，京都ならではの全国のモデルとなるものが必ず出来ると私は確信しております。

以上の３点に心していただきまして，京都力の結晶として，夢と創造力に溢れた計画が策定できますよう，私自身も先頭に立って大粒の汗をかいております。ここに御出席の皆さんが徹底した議論の中心となっていただき，強力なリーダーシップを各職場で，また，市民の中で発揮していただくようお願い致します。

私からは以上であります。